

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回スポーツ推進審議会
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和4年8月23日(火) 18時から20時00分まで
開催場所	801会議室
出席者	会長 田中 幸夫 委員 副会長 本橋 玲子 委員 委員 中川 稔 委員 服部 啓次郎 委員 樋田 和博 委員 檀原 延和 委員 長谷川 貴広 委員 佐藤 里咲 委員
欠席者	委員 野川 春夫 委員
事務局	生涯学習部長 梅原 啓太郎 生涯学習課長 関 次郎 スポーツ振興担当課長 中島 憲彦 スポーツ振興係主査 岡本 康夫 スポーツ振興係主任 津田 理恵 スポーツ振興係主事 西村 謙太郎 ランドブレイン株式会社
傍聴の可否	可 一部不可 不可
傍聴者数	1
傍聴不可等の理由等	-
会議次第	1 令和4年度 スポーツ推進審議会スケジュールについて 2 第2次スポーツ推進計画の策定について 3 その他
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり
提出資料	別紙のとおり

第2章は、これまでの審議を踏まえ作成したものです。

今回は、18ページの第3章、基本理念、基本目標、成果指標をメインに、第1章、第2章についても併せて審議していただきます。

もう一つ、資料3のスポーツ環境充実に向けたアンケート調査報告書（郵送形式）という資料がございますが、こちらがメールでもお知らせしたところですが、前回審議会で野川委員から、地域別に分けて集計してはどうかという御意見をいただきまして、前回お配りしたアンケートの結果に地域別の部分を坂上、坂下に分けた調査を追加しているものです。

では、御説明をランドブレインさんからお願いしたいと思います。

ランドブレイン株式会社 それでは、資料2及び資料3、合わせて御説明をさせていただきます。

まず、資料3、アンケート調査報告書に関して、坂上／坂下地域の補足した部分について御説明した上で、資料2について御説明をさせていただきます。

まず、資料3につきましては、13ページをお開きいただけますでしょうか。こちらに坂上地域、坂下地域の定義というものを記載しております。考え方といたしましては、市の南側、野川の北側あたりに存在しております国分寺崖線を目安に、北側を坂上地域、南側を坂下地域という大きな考えで整理しております。坂上地域、坂下地域、それぞれに含めた町目につきましては以下のように記しております。本来、もう少し各町目によって坂上、坂下という位置の違いがあるんですけども、今回は町目についてアンケートでお伺いしていないため、町目単位での分けとなっております。

今回、坂上、坂下で分けた狙いといたしましては、地形的な高低の関係もありますし、その施設の立地バランスというところにも特徴があるのではないと考えております。そうした特徴を今回の分析で補足したいというのが狙いでございます。

蛇足ですけれども、この13ページ間10につきましては、回答者に運動・スポーツの実施場所を伺っている設問なんですけれども、こちらについて、坂上地域、坂下地域での違いを見たのがこちらの結果でございます。事務局の考えといたしましては、こちらのグラフの先頭でございます公共のスポーツ施設（市内）というところにつきまして、施設の立地の関係などから、坂上地域、坂下地域でも

違いが出てくるのではないかという仮説を持っておりましたが、結果としては特に違いはございませんでした。そのほかの項目を見ますと、坂上地域のほうが、グラフですと紫色になります民間商業インドア施設、室内での民間スポーツ施設の割合がやや高いという特徴などを見ることができます。

こうした地域別の分析を、こちらのスポーツの実施状況に係る設問のところから、運動・スポーツに対する考え方の部分ですとか、スポーツ関連の取組など、各部分で伺っておりますが、今回は、特に特徴の出たところに限って御説明させていただきますと、32ページをお開きいただけますでしょうか。こちらは、回答者に運動・スポーツをしない場合／できない場合の理由というものを聞いたところの一部で、その理由として、場所や施設がないと答えた方の特徴を分析したものでございます。

こちらにつきましては、坂上／坂下地域での特徴というものを32ページ下に記しておりますが、坂下地域の方が、場所や施設がないという理由が、運動・スポーツをしない／できない理由になると回答している割合が高いという結果は出ております。こうしたところには坂下地域の立地の特徴が出ているのではないかと見ることができます。

最後に、102ページを御覧ください。こちらは、今後の小金井市のスポーツ振興に向け力を入れてもらいたいことを聞いた設問でございます。こちらについて、坂上地域、坂下地域での特徴を見たところ、最初のいつでも運動・スポーツのできる場の充実というところが坂下地域において割合が高く、その次の公共スポーツ施設の機能・サービス充実というところでは、坂下地域の割合が坂上地域と比較して低いという結果が出ております。こちらについて事務局といたしましては、やはり坂下地域の中には公共スポーツ施設が少ないという状況もございまして、こちらへの希望、考えがいつでも運動・スポーツのできる場の充実というところにより多く寄せられたのかなと分析をしているところでございます。

地域別の分析については、こうしたところをもって計画に反映させていきたいと考えております。

それでは続きまして、資料2についての御説明に移ります。

まずは、1枚めくっていただいて目次を御覧ください。今回は3章までの記載となっておりますが、計画全体といたしましては、こ

の全5章立てというところの考えで策定していく予定です。

第1章につきましては、小金井市スポーツ推進計画の概要について述べた上で、第2章につきましては、その第2次推進計画の改定にあたっての情報の整理というものを行っている章でございます。第3章につきましては、1章、2章を踏まえた計画の基本的な考え方というものを示しており、こちらについて今回御議論いただく予定でございます。

その先の項目ですが、第4章につきましては、目標に沿った具体的な取組というものを位置づけ、最後、第5章で、計画の推進にあたってということで、こうした取組を推進していくために、一緒に手を取り合っていく関係の団体さんの体制ですとか、目標の指標など管理の方法というものを記す予定となっております。

それでは、各章につきまして、内容を御説明させていただきます。

まず、1ページ目を御覧ください。第1章、スポーツ推進計画の概要ということで、まず1番では、今回の計画策定の背景と目的について記しております。

平成29年4月に策定された現スポーツ推進計画につきましては、当初、令和2年度を目標に掲げておりましたが、その後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期といった事情がございましたので、この計画年度を令和4年度まで2年間延伸しているという状況でございます。

こちらの計画においては、その下に記しております4つの基本目標というものを掲げ、各種施策を実施してきているところでございます。その推進計画の目標年度が今年度、令和4年度ということでございますので、この目的として改めて現状を整理・分析した上で改定していきたいというものをこちらでは記しております。

その下、2、計画の位置づけでございますが、国の第3期スポーツ基本計画及び東京都ですと東京都スポーツ推進総合計画といったもの踏まえつつ、小金井市の中の計画におきましては、第5次的小金井市基本構想といったもの、及び、そこから5年間の具体的な取組を示しております前期基本計画といったものに関連する計画ということで、本第2次小金井市スポーツ推進計画は位置づけられております。そのほか、このスポーツ推進計画に関係する計画いたしまして、生涯学習推進計画などを踏まえて策定していきたいと

考えております。

最後に、この計画の期間につきましては、上位計画となります小金井市の基本構想の計画年度と合わせまして、来年度令和5年度から令和12年度までの8年間としたいと考えております。

おめくりいただきまして2ページに、本計画が対象とするスポーツの範囲を記しております。これについてはスポーツ基本法における「スポーツは、世界共通の人類の文化である」といった記載などを踏まえて、第2次推進計画においては、スポーツの楽しさと喜びといったものを幅広い身体活動、具体的に競技スポーツだけにとらわれず幅広いスポーツというものを捉えていき、推進していきたいと考えております。

続きまして、3ページを御覧ください。ここからが第2章ということで、推進計画の改定にあたって様々な情報を整理しているところでございます。

1番につきましては、前推進計画、現行の推進計画の策定後の主な取組と評価について記しております。こちらは前回の審議会においてもお示ししておる内容でございますが、4つのそれぞれの基本目標に応じて行ってきた取組を整理しているところ、併せて評価を記しております。

前回御説明しているところでございますのでやや割愛して説明してまいります。基本目標1、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進につきましては、これまで参加していらっしゃる小金井市スポーツ推進委員様、黄金井倶楽部様、体育協会様などのお力もいただきながら、子供や高齢者、障害者など、幅広い市民のスポーツ活動を推進してきているところです。今後こうしたライフステージですとかニーズというものが多様化していくと見込まれますので、よりきめ細やかなスポーツ活動の推進を図る必要があるという評価をしております。

続きまして基本目標2、スポーツ・運動を通して健康づくりにつきましては、ポールウォーキングイベント、こがねい国保健幸チャレンジの実施などを通じて、市民の健康づくりを推進しているところですが、今後、人生100年時代など皆様の寿命の延伸、さらに延びると言われております。そうした長い期間、人生というものをより充実したものにするため、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間、つまり健康寿命というものを延ばして

いくことが重要になると考えております。

続きまして4ページ、基本目標の3、スポーツ環境の充実につきましては、スポーツフェスティバルや野川駅伝大会などのスポーツイベントの開催、小金井市総合体育館や栗山公園健康運動センター等の施設の継続的な運営、学校施設の開放やスポーツ開放校事業の実施など、様々なイベントや公共スポーツ施設の改修、学校スポーツ施設との連携などを推進してきているところです。今後も老朽化していく公共スポーツ施設につきましては、計画的な維持管理・改修の実施をしていくとともに、学校スポーツ施設や民間スポーツ施設等の有効活用を進め、スポーツ環境の充実に取り組む必要があると評価しております。

基本目標の4、競技力向上に向けた選手育成、指導者の資質向上につきましては、トップチームやアスリートなどとの連携により様々な教室等を開催してきているところです。こうした強みは引き続き生かしながら、市民の運動・スポーツのきっかけや興味・関心づくり等に取り組む必要があると考えております。

続きまして5ページ、スポーツを取り巻く環境の変化といたしまして、国や都の潮流というものを計画から整理しているところでございます。

国における潮流といたしましては、第3期スポーツ基本計画は新しく今年度に策定されたものでございますが、その特徴といたしまして、3つの新たな視点というものが示されております。1つ目が、「つくる／はぐくむ」視点ということで、近年の社会の変化、この先の状況の変化といったものにしっかりと応じて、これまでの仕組みなどとらわれずに様々な手法・ルールというものを作り出していくことが必要という視点。2点目に、様々な立場・背景・特性を有した人・組織というものが集まり、ともに連携しながら課題の対応や活動の実施を図るという「あつまり、ともに、つながる」という視点。3点目に、性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないよう「誰もがアクセスできる」社会の実現、機運醸成を図るという視点が示されております。

6ページ、こちらは東京都における潮流といたしまして、都のスポーツ総合計画を記しておりますが、こちらでも近年のスポーツを取り巻く環境の変化といたしまして、人口構成の変化から社会状況

の変化まで、8つの変化というものを踏まえながら、基本理念・目標といたしまして、健康長寿の達成や共生社会の実現、地域や経済の活性化というところを目指していく方向性が示されております。

7ページには市の計画について整理をしております。7ページに記しておりますのが、先ほど冒頭でも御紹介いたしました小金井市の基本構想・前期基本計画の取組でございます。この計画におきましては、将来像といたしまして「いかそうみどり 増やそう笑顔 つなごう人の輪 小金井市」というものが掲げられ、その下、まちづくりの基本姿勢として、「みんなの暮らしを大切にする まちづくり」「みんなで進める まちづくり」「未来につなげる まちづくり」の3つが示されております。

その下が令和7年度までの5年間の計画が記されております前期基本計画ですが、スポーツ関係につきましては、この6つの施策のうち「文化と生涯学習」の中に、施策として位置づけられております。その下に詳細を記しておりますが、目指す姿として、「豊かな生涯をスポーツとともに」を基本理念とし、スポーツに気軽に親しむことができる環境や機会があり、誰もが楽しく元気に仲間づくりを通して、生活の豊かさが向上されていくまちというものが示されております。

この計画におきましても目標値というものが記されておまして、週に1回以上スポーツを実施している市民の割合を65%にする。市のスポーツ施設の利用者数を60万人にするといった指標が掲げられております。

その下に小金井市の生涯学習推進計画についても記しておまして、こちらにつきましても、施策の方向性として、誰もが生涯学習に親しむ環境づくり、地域と共につくる生涯学習、生涯学習のネットワークづくりといった方向性が記されております。こうしたところをしっかりと踏まえて考えていきたいというのが、この計画の考えでございます。

続きまして、8ページを御覧ください。ここからは小金井市の現状などについて、データ等を用いて整理しているところでございます。

まず人口につきましては、現在微増傾向でございますが、将来の予測によりますと、2030年（令和12年）以降、減少傾向に転じるという見込みであること。さらに、年齢3区分別の人口という

ものを下にグラフで記しておりますが、2つあるグラフのうち、下の部分が各年齢別に割合を記しているものでございます。こちらによりますと、令和3年においては、一番上の老年人口、65歳以上の人口が21%になっておりますが、こちらの老年人口割合というものも今後の人口減少などを背景に、小金井市においても老年人口割合の増加が見込まれているところでございます。

関連いたしまして、9ページの健康状態というところにつきまして、平均寿命というものは徐々に延びているところでございます。併せて下には小金井市及び周辺都市の平均寿命というデータがございまして、こちらを御紹介しますと、小金井市につきましては、男性で左から3番目、81.9歳、女性で87.5歳というように、基本的には平均寿命が長い状態というものは実現できている状態にあるとは考えておりますが、先ほども御紹介したように、健康寿命というものは、その人生の中でどの段階まで健康な状態でいられるかというところでございます。そちらについても、寿命の延びに応じてしっかり、なるべく長い間、健康に過ごしていけるというものが必要になると考えております。

めくっていただきまして10ページにつきましては、市内の活動団体、協会・支援団体ということで黄金井倶楽部様、体育協会様、スポーツ推進委員というところを御紹介させていただいております。

隣の11ページにつきましては、市のスポーツ資源というものを整理してございまして、公共のスポーツ施設のほか学校施設ですとか公園、そのほか、最近出来ました野川クリーンセンターでのバスケットコートなど、市内におけるスポーツ資源や公園・学校等というものを整理したものでございます。公園につきましては、この図中では、数が多いですので、ボール遊びなどの状況、ルールなどを踏まえながら1,000㎡以上の公園というものをこの図の中では掲載しております。

続きまして12ページにつきましては、アンケート調査の結果というものを整理しているところでございます。こちらの具体的な内容については前回御説明したところでございますので、内容は割愛いたしますが、掲載した項目といたしましては、最初①番に運動・スポーツの実施状況、②番目に運動・スポーツをしない／できない理由、さらに、先ほど補足的に実施いたしました坂上地域、坂下地

域での状況というものを付けております。③番目に、新型コロナウイルス感染症が運動・スポーツ習慣に与えた影響。こちらについては、全体といたしましては、ちょっと運動を実施する意欲というものが低減したという結果が出ておりましたが、御自身の健康状態別に見ると、健康でないと考えている方、体力に自信がないと考えている方などは、新型コロナウイルス感染症が逆に運動・スポーツを実施するきっかけ、チャンスになったという特徴もございましたので、こちらを紹介しております。

最後に14ページの部分には、小金井市のスポーツ関連事業の認知度ということで、多くの施設、事業で認知度が低いという結果を整理しております。

15ページの最後、小金井市のスポーツ振興への期待や要望として、「いつでも運動・スポーツのできる場の充実」が全体の半数の回答を得たことを整理しております。

続きまして、16ページでございます。こちらはこれまで御紹介しなかったデータでございますが、小中学生の体力・運動習慣の変化というものを、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がなかった頃と比較して整理しております。こちらは木藤委員などからいただいた意見を踏まえ整理したデータでございます。

まず一番上に載っているグラフが、東京都で実施している統一体力テストの結果というものを整理したものでございます。感染拡大前に実施している令和元年度結果と比較して令和3年度の結果というものはほぼ横ばいですが、やや微減というところも見られるところではあります。

真ん中のグラフ、1日の運動時間の中で30分未満であると答えた割合を整理しているところですが、こちらにつきましては、同じく感染拡大前、令和元年度と比較して、小学5年生ではやや割合が高くなって、中学生で高いというところが見られる結果にはなっているかなと思っております。

最後に運動部の所属割合というものは全体的には減少傾向にあるということです。今、部活動の地域移行の話などもあります。こういったお子さんたちが運動する環境というものは様々多様化していくというところもございまして、そうしたことをしっかり踏まえていくことが必要ではないかと考えております。

続きまして17ページ、こちらがこうした現況やアンケート結果

などを踏まえた第2次推進計画改定の視点を整理したものでございます。改定においては4点を整理しております。こちらは前回、案としてお示ししたものに対して、意見を踏まえて更新したものになっております。

1点目につきましては、前回と基本的に変わりませんが、前推進計画の基本理念・基本目標を継続するという事で、アンケート結果を踏まえて、週に1回以上スポーツを実施した市民の割合は向上しておりますが、現行の計画で目標値として掲げている65%に到達していない状況であることから、引き続き推進していくという旨、記しております。

2点目につきましては、運動・スポーツの場・機会の充実を、市の強み・資源を最大限活用して推進していくということで、前回、長谷川委員からいただきました市内にいらっしゃいます多くのトップアスリートや学校の存在、地域の豊かなコミュニティ、公園などの緑といった市の強み・資源を最大限活用した、まさに小金井市らしいスポーツ推進といったものを図っていきたいという内容を2点目に再調整いたしました。

3点目はその具体的な手法となるかと思いますが、情報発信の強化というところを、前回と同様ですが位置づけております。前回こちらにつきましてはDXの取組など御意見をいただいたところでございますが、そうした具体的なお話につきましては、第4章などで記載をしていきたいと考えております。

最後4点目に、官民連携・庁内連携での推進というところも前回整理した内容でございますが、市の基本計画などにも書かれている市に関わる様々な主体の参画と協働の推進の観点などを踏まえて、企業等との官民連携ですとか、健康福祉、学校教育といったと庁内での連携、周辺都市との連携といったものを推進していく旨、整理しております。

最後、18ページが今回の中心になるかと思いますが、第3章、計画の基本的な考え方ということでございます。

まず初めに、基本理念につきましては「豊かな生涯をスポーツとともに」ということで、現行の計画と同じ内容を掲げておりますが、下の文章につきましては、これまでの御審議を踏まえ、具体的に想定される方として、競技スポーツや日常的に運動・スポーツを行っている方のほか、そうした運動・スポーツがあまり得意ではない方、

仕事や子育てに忙しい若い時代、障害を抱える方、人生100年時代が到来する高齢者の方などを想定している旨、記しております。こういった方、それぞれに合うようなスポーツ・運動を幅広いものとして捉えていく環境づくりを目指していくことを掲げております。そうした暮らしの実現を通じて、お一人お一人によっては健康づくり、そのほか地域にとってはコミュニティの情勢、さらに市全体で持続可能で楽しく元気な地域が広がっていくというものを目指したいと考えております。

それを踏まえた基本目標といたしましては3点を掲げております。基本的には、現行計画の4項目と変わらないんですけれども、その下にちょっと小さく記しておりますが、現行の推進計画の基本目標4を基本目標1に組み込む形での再構成を考えております。

1点目の誰もが親しめるスポーツ活動の推進というところにつきましては、上段にも掲げておりますが、様々な一人一人を尊重し、市民が主体的に生涯を通じてスポーツを楽しむことができる環境づくりを図っていきたいと考えております。その中の市民という中に、競技力向上に関係するアスリートなども含めて考えていきたいという案でございます。

2点目の基本目標として、運動・スポーツを通じた健康づくりということで、データでは今後、平均寿命の延伸というところも見込まれていく中で、しっかり健康寿命を延ばしていくことが重要と考えておりますので、そうした観点を掲げている目標でございます。生活習慣病を予防し健康を保持・増進するということが健康寿命の延伸につながり、それが生きがいを持った暮らしにつながると考えておりますので、健診事業等とも連携しながら、定期的にスポーツや運動をする習慣づけというのを図っていきたいと考えております。

最後の基本目標3につきましては、スポーツ環境の充実ということで、こちらはアンケートでも求められているスポーツの機会の充実というところを受け掲げていく目標としたいと考えております。その実現を、先ほどの改定の視点にも御紹介いたしました多くのトップアスリートや学校などの資源といったものを活用することで推進していききたいという旨、記しております。

最後、成果指標を記しております。先ほど申し上げたように、本計画の目標年度は令和12年度としたいと考えておりますが、その

中間にあたる令和7年度に、まず現行の計画で目標としております週に1回以上スポーツを実施している割合を65%に向上させていきたいと考えております。その上で、最終年度の令和12年度までには、東京都のスポーツ推進総合計画で掲げている70%へ向上というものを目標に新たに掲げ、推進していきたいというふうに考えております。

説明が長くなり申し訳ございません。本日の資料の説明は以上でございます。

田中会長

資料もいっぱいあり、なかなか整理をするのも大変なんですけれども。

まずは、全体について何か御質問等ございましたら。今、第1章、第2章、第3章、今日は第3章がメインの議論になりますけれども、全体について何か御質問等ありましたらお願いします。その上で第3章について議論を進めたいと思っております。

よろしいですか。まあ、第1章、第2章は前回、前々回に出てきた資料で大体は理解していると思っておりますけれども。それらを踏まえてですね。17ページの改定の視点というところで、こういう4つの方針でというか、こういう視点をもって見ていきますよということを示し、第3章に入っていきますけれども。

じゃあ、この辺からやりますか。第3章の基本理念、「豊かな生涯をスポーツとともに」というのがこれまで掲げてきた理念であります。その説明文はまあ多少変わっておりますけれども、この部分について御質問や御意見がありましたら、挙手の上、お名前を言って発言していただければと思います。

長谷川委員

取りまとめ、ありがとうございます。全体的にやっぱり今までの意見を反映していただいている、特に17ページの改定の視点のところは、小金井ならではのところとか酌み取っていただいているのがすごくありがたいと思いましたが、実際にやっぱり小金井で抱えている課題に向けて、こういうところをやっていけるといいなという思いとリンクしているので、すごくいい内容に整理されているなと思いました。

ちょっと細かいところかもしれないんですけれども、何ていうんですかね、せっかく小金井の特性を生かして視点を変えていただい

たというか、ここを書いていただいていると思うので、何かそこをちょっと加えていただいてもいいのかなと思いました。一言、冒頭にじゃないですけども、小金井の利点を生かしてこのような視点でまとめましたという感じがいいのかどうか分からないですけども。何ていうんですかね、そこは東京都で標準的なものを採用しているということじゃなくて、あえて小金井だからこそこできることというところでまとめていただいていると思うので。書き方の問題だけだと思うんですけども、そこは何かちょっと加えていただいてもいいのかなと思ったところです。

あと、ちょっと気になった点としては、前半のほうで評価ですかね、今までやっていただいた取組のところとその評価のまとめ方の部分で、あんまり厳し過ぎなくてもいいのかもしれないんですけども、取組と取組が並んでいるように見受けられるところもあるなというふうに思いました。

例えば4ページ、スポーツ環境の充実のところ、上で取組が書いてあって下で評価なんですけれども、スポーツの場の充実を推進してきましたって、これは何か取組じゃないのかなと。実際、やっぱり評価としては取り組んできた内容の結果、この取組が実際うまくいったのか、うまくいかなかったのかみたいなのが評価なんじゃないのかなという観点で読むと、これって評価なのかなというふうに思えるところが幾つかあるのかなと思って。ただ、最後のまとめのところ結局、やらなきゃいけない、これからやっていきたいことがうまくまとまっているので、あまり気にしてもしょうがないのかもしれないんですけども。

取り組んでいただいた内容と、例えばアンケートの結果とかとリンクしているんですか、評価って。今回、取ってもらったアンケートというのは、実際、運動環境を充実したということは取組としてあったとしても、市民から見るとあまりそこが見えてなかったりするところも課題としては見えたと思っていて。そこが、ある意味、評価なんじゃないのかなと思うんですけども。そういう点ではいかがですか。

中島課長

長谷川委員から2点ほど御意見をいただきました。

まずは、改定の視点のところなんですけれども、こちらのところ、市の強みや資源を最大限生かして推進していくような内容も含ま

れていますので、最初の改定の視点の前のリード文の中にそういったものを一言加えていくか、もうちょっとオリジナルを生かすような形で加えて、リード文のほうは再考させていただきたいと思います。また、そういった言葉が入れられるように工夫をしたいと思います。

2点目なんですけれども、主な取組と評価のところ、評価の内容が取組の内容をそのまま、同じようなことが書かれているんじゃないかというような御質問だったかと思います。こちら、評価のところは、確かに取組がそのまま、できていますねというようなところでの評価を記載しているところがあって、評価を読んだときに、評価という形で読めないよという御指摘がありましたので、ここの評価の書き方ももうちょっと事務局のほうで見直しまして、また改めて提出をさせていただきたいと思います。

長谷川委員 これって、誰がどう評価されているんですか。

中島課長 先ほどアンケートの意見なども反映されていないんじゃないかというようなお話もございました。確かにそういった直接、生の声などがこちらの評価のほうではうまく反映できていないかなというところもありますので、その辺も真摯に受け止めて、評価のほうには追記できるような形で考えたいと思います。

長谷川委員 そうですね。アンケートでいただいていることは事実は事実だと思うので、それは素直に書きつつ、だからこそ、こうしていくみたいなところでつなげていただければ全然問題ないと思いますし。それが最終的に17ページでしたっけ、最後の今後の指針に向けてつながるような流れになっていると、よりいいかなと思いました。

中島課長 そうですね、そのような形で、実際の市民の方々の声もこの評価の中にも取り入れまして、そういった形で計画が組み立てられているんだよというのが分かるようにリード文のほうを考えたいと思います。

長谷川委員 ありがとうございます。

田中会長

今の評価のことについて言えば、説明しているみたいなの、評価と
言いながら説明というのか、評価はしていないんじゃないか。これだ
けは、これぐらいはできましたけど、これはまだできていませんと
か、そういう表現をしてもらったほうが、一般的にはよく分かるん
じゃないですかね。

例えば、評価のところに「子どもや高齢者、障がい者など、幅広
い市民のスポーツ活動を推進してきました」って書いてあるのは、
これは上に書くべきことなんじゃないですかね。そうしたら、そう
いうことをこんないろんな取組をしてきたんだけど、まだうまくい
っていない部分がありますよねというような感じで、そういう
表現にされたほうが分かりやすいんじゃないのかなと思います。

中島課長

今、田中会長の御指摘にありましたように、基本目標の1の部分
も踏まえて、多分全体的なお話だろうと思っております。長谷川委
員もいろいろと似たような形で、説明として、どこができて何々が
できなかったからというような、もうちょっと分かりやすい形のほ
うが評価としてはふさわしいのではないかというお話だったと思
います。改めて事務局のほうでもこれまでの取組を振り返りまして、
その辺、評価としてもうちょっと分かりやすい表現に工夫して変更
したいと考えますので、もう一度改めて出ささせていただきたいと思
います。

田中会長

よろしくをお願いします。

この中身について云々というとなれなんですけども、中身とい
うか、例えば表とか図とかいろいろありますよね。もうちょっと見
やすくなれないのかなという気持ちがあるのと、例えば、どこか小
金井市の特徴的な人口の推移とか何とか、あるいは、現時点でこう
なって数年後にはこうなるんだよというようなことを強調しつつ、
平均寿命は上のほうにいるんだけど中で囲んじゃうとか、そういう
表現にしてもらえたらいいかなと思うのと。

アンケートも大変だと思うんですけど、結果が小さくて図表が大
きくて何かこう、後での作業になるかもしれないんですけど、上手
にまとめてほしいなど。例えば、12ページのアンケートの概要と
いうのが出てきて、①運動・スポーツの実施状況というのが小さい
ですよね。下のほうに行くと、運動・スポーツの実施日数というの

は大きいですよね。でも、大切なことは①のところに書いてあるんですよ。というふうに、どこを見るんだみたいな感じになるので、もうちょっとめり張りをつけて、あとでできることだとは思いますが、一応考えておいていただければいいかなと。

津田主任 今の田中会長の御意見を踏まえて、レイアウト、文字の大きさ等、再度検討して、またお示ししたいと思います。

田中会長 急いでやらなくても、全体が出来たときに、統一感というか統一性とかがあると思うのでね。こちらの18ページはすごく見やすいですよ。その前の16ページ、これ見にくいですよ、はっきり言って。図表がいっぱいあるんだけど、数字を追いかけるのも、どれがどの数字だか。だから、この辺をきれいにしてもらえると、どこを強調したいのが、どこを見てもらいたいのか、めり張りをつけていただけると。それで、この結果は一番上なら一番上にあるわけですよ。これですと。それで、この資料が下ですよというふうなめり張りをつけてもらえるとうれしいかなと。見るほうもやさしくなると思います。

中島課長 そうですね、おっしゃるとおり、めり張りという点で、字のフォントとかも物すごく大きかったり、逆に重要な文字が小さくて、あまり目に飛び込んでこなかったりというような部分も多々あると思います。ちょっと今後も作りながらその辺のところ、フォントの大きさなども検討しまして、全体的に見やすいような形で統一していきたいと考えますので。また御提示したいと思いますので、よろしく願いいたします。

田中会長 よろしく願いします。

中川委員 今の評価というようなところで、先ほど田中先生のほうからも言われたところで、4ページ等で自分も思うところでは、例えば、スポーツフェスティバル、野川駅伝大会、市民体育祭等という3つで片づけてしまうという形については、スポーツでいろいろ競技種目があるわけですが、一つの競技でも、例えばジュニアのバレーボール、体育館で7月29日に講習をやったというような報告が上

がってきて、今後出ていくわけですがけれども。

そういうふうには、逐次行われている運動ということが競技ということになると、例えば今言ったバレーボールであれば、ママさんバレーがあっても、あるいは先ほど言ったジュニア育成があるとか、幅広いところでの内容を年間通していろいろ行われている競技があるわけです。

先ほどの写真のところでも、イベントで4つ出ている中で、自分たち体育協会でもPRが少ないのか、シニアスポーツフェスティバルとか市民体育祭というのは、これが総合開会式の写真になってしまう。これは会場、競技別で行われる内容が反映してないとなる。前日も言ったんですが、認知度が少ないなというところで反省の意見を述べたんです。こういうところでも評価ということになると、各競技団体でそれなりにやっている内容をもっともっとPRするなり、評価としていかなければと。

余談ついでになりますが、先週3日間にわたって大田スタジアムと府中のほうで、第77回の国体に出るチームを選出するソフトボールの大会が、成年の男子、女子、それから、高校生の男子と女子ということで、東京都は残念ながら成年の女子しか第2候補として関東地区から国体に出ていくチームがないんですけれども。そういうようなことも逐次、一般市民の方にPRして行って、オリンピックのソフトはもう今回で終わっちゃったというところもありますけれど、そういうふうにはみんなやっているぞと。近隣の県からも来てそういう大会をやっているということはほかの競技にも言えることですので、その辺の集約あるいは宣伝、成果発表ということになると、一般の方にもそれなりの興味等になって、先ほど平均寿命というところでは100歳まではちょっとまだ、かなりありますけれど、そういう中では、全体で行くというところはまだまだ、一つの評価、PRということで加えていただければ。あるいは、そのためにはおまえら、こうせいという宿題をいただくこととは思っておりますけれども、これからもそういう意味では、自分たちで進めていきたいと思っております。

中島課長

今、競技別で、こちらに記載しているもののほかにたくさん活動されているということで、そういったPRも兼ねて、こちらのほうを作成してみてもというお話をいただいたかと思います。

基本的には市の委託事業をこちらのほうに記載しているようなところがございます。そういった形で書ける内容については、なるべく項目は具体的に書けるところは書いていきたいなどは考えます。また、写真なども場合によってはそういったPRができるようなものがあれば、この計画の随所にちりばめるという方法もあるかもしれませんので、ちょっとその辺も併せて検討させていただきたいと思います。

基本的には、市から委託しているような事業がメインで載せているところに関しましては、御理解いただければなと思います。

田中会長 10ページの小金井市体育協会というところがあるじゃないですか。写真があって、その下に説明があるんですけど。こういうところに、各種スポーツが何団体いて、いろんな競技とかそういうことをやっているような、何か地域の社会文化の向上発展に寄与することを目的としているんだけど、それプラス、所属団体が30団体あって、所属というのか、そういう表現にしてあげたら、もうちょっとこう、ね。

中川委員 委託事業で、市民体育祭といっても、9月11日に総合開会式をやりませけれど、この右側の写真のような形です。ただこれも、本年度はコロナの過密ということで、いろいろスペースを取って過密にならないような感じになりますけど、競技としては、各体育館、屋外であれば上水公園あるいはテニスコートということで行われて。今おっしゃっていただいたように、種目が幾つ出ているというようなことについては、体育協会に所属している団体ありますので、そういうところでの各競技を少しずつ委託の中でも種目等を含めてPRしていくことが、繰り返しになりますけれど、自分たちの務めでもあるとは反省しております。

田中会長 今現在、大体、何団体が加盟されていますか。

中川委員 35ですね。

中川委員 ですから、一番あれとして、この駅伝なんかは陸上ですよ。サッカーさん、野球とかいう区切りで。

中川委員 で、その中に支援団体としてはスポーツ少年団ということで、そうすると黄金井倶楽部さんがティーボール大会とあって、野球をす
る前という形で小学校3年生までは、1年生・2年生とかランク分
けされているんですけど、3年生・4年生、それから5年生・6年
生。そうすると、1年生・2年生はまだ野球となるとちょっとつら
いかなということでティーボールでやって、それをどんどん底辺を
広げていくと。

 そういうのも先般、または自分自身、これもちょっと行政関係と
やった場合には、今一番暑い時期にやっているんですよ。これ、本
当に気の毒な気がしてね。盛り上げていく中でも、やっぱりいい季
節、これだけ異常気象でいった場合に、海の日が一番暑いときにや
っていたら、これもつらいなというところで、父兄、運営も含めて
大変な思いをしているんですけども。

 今言った35だと思ったんですけど、スポーツ少年団を含めてや
っているというところは、繰り返しになりますが、今どきかいて
言われてしまいますけれど、PRが必要だなという感じはしていま
す。

田中会長 小金井市体育協会のところに、その活動がシニアスポーツフェス
ティバル、市民体育祭などのスポーツイベントの開催となると、何
となくそれがメインであるように見えますが、各種団体のそれぞ
れのいろんな活動というのが本当はメインですね。本当はというの
も変な言い方だけど。それぞれの所属している団体があるので、そ
ういう中に、じゃあ35団体いますよという一文をこのどこかに入
れてもらえば、2022年現在、加盟団体が35団体で、ジュニア育
成やシニアスポーツの振興などに取り組んでいますと、それぐら
いでもいいんじゃないですか。

中川委員 はい。

田中会長 個々の名前を入れるのはあれですから。

中川委員 ですから、さっき課長が言われたように、要するに委託事業とい
う形で絞ったデータでPR資料としてまとめられているんですけ

ど、現実的には体育協会で支援いただいているのは、共催事業もあるわけですし、都のほうからすればジュニアもあるでしょうし、シニアもあるとなると、それを通して競技して、いろんな大会に参加している競技団体、年代別に出ていっているわけですから。

今回も、スポーツ少年団は優勝したということで、表敬訪問という形で一般市民にも御存じいただけるかなと運んでいるわけですが、そういうのを少しでもチャンスを多くしたいです。

余談になりますが、自分も来月17日には、茨城の常陸太田で全国大会、年寄りのお遊び的なゲームですが、そういうのにも出たときには、PRできるような成績を残せばいいわけですが、行くということ自体もPRになるかと思っております。それも、年寄り、私の仲間が1人でも増えればというところは、いずれというので、繰り返しになってしまいますけど、競技別にそういうようなPRの道は探っていきたいと思っております。あるいは、提案できるようなことがあれば、それは報告の中でお知らせできればと思っております。

中島課長

そうですね、こちら(3)のスポーツ活動団体、協会・支援団体についての説明文が、ちょっとリード文としてはやはり短過ぎて、その団体さんがどういった団体なのかというのが分かりにくいところがあるかと思っておりますので、ここについてはもうちょっと説明を入れたいと思うんですけれども。さらに各団体の紹介ページをつくるのであれば、このページに入れ込むのではなくて、例えば資料編みたいなものをつくったときに、そのところに体育協会さんなら体育協会さんのページをつくるのか、そういった形で充実を図って、御覧いただいたときによく分かるようなものをつくっていただければいいのかなと。こちらはやはり計画がメインになりますので、このページに関しましては、もうちょっと簡潔に分かりやすくまとめて書かせていただいて、さらに詳しい紹介ページのようなものは資料編でというような立てつけで、可能であればやらせていただければと考えます。

田中会長

黄金井倶楽部さんとか、スポーツ推進委員のほうはこれでいいんですかね。

中島課長 こちらも全て同様に、ちょっと説明が足りてないかなという部分も感じますので、さらに説明文、もうちょっとリード文を増やして、こちらのページに関しては分かりやすい文章を追記したいと考えます。

田中会長 では、本丸の18ページになると思うんですけども。
先ほどは基本理念のところについてはあまり御意見がなかったようですけれども。また、思いつきましたら御意見を言っていたければと思います。

2番目に基本目標を3つ掲げてあります。前の計画では4項目目の競技力向上という部分が入っていたんですけども、これは1番に織り込んだということで、基本目標を3つ掲げてありますけれども。このことについて御意見等ありましたら、お名前を言って発言していただければと思います。

1つずつやっていますか。

基本理念のところと下の基本目標というところに「スポーツ」という言葉が出てくるんですけども、その「豊かな生涯をスポーツとともに」という、その説明文の下には「運動・スポーツ」というふうな言い方をしているわけです。これは、スポーツという概念があるわけですけども、運動を付け加えることによって、身体運動を含めたいろいろなものも含まれているというのが下の概念に書かれています。豊かな生涯をスポーツとともにというのでよろしいのでしょうか。それとも運動・スポーツみたいに統一していったほうが、基本目標の2というところで、運動・スポーツを通した健康づくり書いてありますね。3番は、スポーツ環境の充実と書いてあるんですけども。そこを運動・スポーツというふうに入れ替えていってもいいのかなというふうには考えていますけれども、皆さんの御意見を。

どなたか、御意見はないですか、どうぞ。

本橋副会長 スポーツだけだとこの目標の70%はとても難しいと思うんです。それで、運動・スポーツというと、運動は健康のための、健康を維持するためにする運動だと思うので、運動・スポーツだと範囲を少し広げて、何ていうかな、皆さんにお知らせするって変ですけど、そういう形の言葉だと、皆さんのほうからアンケートなんかで

も、よりよく来るんじゃないかと思うんです。スポーツという、どうしても競技という概念があって、1人でやるものじゃないと思うので、運動というのは誰でも健康のためにやる運動だと思います。楽しみながらやるというのを、少しでも充実していただければいいかなと思うので、運動・スポーツとしていただいて、もう少し市民の方に幅広く参加してもらえようにするほうがいい、ここに足していただけるといいかなと思っております。いかがでしょうか。

長谷川委員 長谷川です。

運動・スポーツにするのは賛成です。

ランドブレインさんに聞きたいんですけども、これ、やっぱりこういうはかり方をするのが成果指標としては一般的なんですかね。

ランドブレイン株式会社 はい。成果指標として一番多く用いられているのは、アンケートを基にした実施率というのが一番よくある指標ということにはなります。

長谷川委員 分かりやすくいいんでしょうけども、でも65%って、結構リアルなんですかね。自分なんかは比較的運動しているほうなんですけど、うちの嫁なんかは全くしてなくて、アンケートの取り方とかにもよるんでしょうけど、現状からするとそこそこ実現可能な目標なのかな。全国的に見てもほかの地域で見ても……。

ランドブレイン株式会社 そうですね、御説明の中でも少し触れたところなんですけれども、東京都のほうの計画でも、この実施率につきましては70%を目標にして、70%に到達した後に75%に上げるとかというよりも、そこから維持を図っていくというような目標の掲げ方になると思いますので、計画の考え方としては、7割ぐらいまではいろいろな工夫で到達できるのではないかと。さすがに100%とか全ての人がやるというのは現実的ではないというところがあるので、70%を維持という表現になっているのかなと思うんですけども。少し高い目標を掲げて目指していくというような目標自体の考え方も含めると、70%という数字、目指すべき指標としてはあり得るのかなと感じます。

長谷川委員 分かりました。

中島課長 一番最初の田中会長のほうから、こちらのスポーツというところを、後段に出てきます運動・スポーツというような名称にしたかどうかというような御意見と、あと本橋副会長のほうから、やはりスポーツというのは競技スポーツのようなものをイメージしてしまって、運動というのは健康のために何か自分でやってみようというものが含まれる。ちょっと幅広くなってくるんじゃないかなというような形で、我々、今回計画をつくるということで市民の皆さんのほうに、そういったイメージをどうやって持っていただくかというのも、確かにすごい重要だなというふうに考えております。

長谷川委員のほうから実施率についてのお話がありましたけども、この実施率もやはりそのイメージが、しっかりスポーツをやらないと、ここにスポーツをしましたと丸ができないというようなイメージを持たれるのか、そうではなくて、自発的に、例えば、エスカレーターがあるんだけど、エスカレーターを使わずに階段を使って歩きますとか、こういったのも運動というくくりでは全くオーケー、自発的にそういったことに取り組むということは、まさに運動していることになりますので、実施率のほうには丸をつけていただきたいような内容になるんですね。

なので、幅広い意味というか、今回我々の目指すところは、やはりスポーツを競技とかではなくて、何か自発的に体を動かして元気に楽しく、生活の中でもそういったものも取り入れていただいて生活していただくことによって、こういった豊かな生涯につながっていくのではないかなという思いもあります。こちら、スポーツという言葉ではなかなか、ちょっとハードルが高いようなイメージを持たれる方にとっても、運動という言葉を入れることによって、少しその辺のイメージを和らげることができるのであれば、そのほうがいいのかというふうに事務局としては、御意見いただいて思っております。

長谷川委員 ありがとうございます。御意見には100%賛成なんですけれども。

やっぱりスポーツを実施するという側面とスポーツを支えると

いう側面もあって、本当に主婦なんかは、それこそ支える側のほうがどちらかというと強い。例えば、自分の子供が少年サッカーをしていますとかといったときに、やっぱり実際問題、運動したくてもなかなか時間が取れないんですよね。だけど、子供がスポーツをやることをサポートしているという側でスポーツには関わっていますということでいうと、スポーツを推進するというところに関わってはいるわけなんですよ。

だからこの指標が、週に1回スポーツをするというふうにしちゃうと、いや、したいけどできないという人もいるし、その一方で、スポーツに何らかの形で関わっている人もいるということからすると、果たしてこのはかり方が、本当にスポーツを推進するという観点でいうといいのかなと思って、ちょっと御質問させていただきました。

中島課長

そうですね、スポーツの推進という意味では、今のような支える人というような立場であったり、例えば最初のほうにも出てきましたけど、スポーツをみるというような立場になったり。そういったいろいろな、昨年からスポーツに関わってくる方々がいらっしやって、こちらの成果指標だけではなかなかそこまで把握し切れないのではないかという御意見だったと思います。

確かにそのとおりだなというふうに思いますが、やはりこちらの65%、70%というパーセンテージを掲げている実施率というのは、やはり御自身が体を動かしていただいて健康的に過ごしていただくような目標としての目標値として掲げているものになっておりますので、一つの成果指標としてはこちらのほうも、他市や東京都の3年度の指標には一応なっておりますので、目標とする数値としてはそのようなもので設定させていただいて、支えるやみる時間については、またアンケートなど、そういったところでは確認していてもいいのかなというふうには考えます。

田中会長

運動ということ、あるいはスポーツということを考えてときに、その運動、スポーツって、今、くくりがあるんですけど。運動と考えたら、僕なんかは家事でも運動になると思います。もっと極端に言うと、通勤する、小金井から行って帰ってくる、これって結構しんどいと思いますけど。それを運動だと言っちゃうと、ちょっとま

とまらないと思うんですけれども。そういう意味では、家事とか立っているだけでも、身体的にはいろんな影響を与えることができると思うんですけれどもね。

そういうふうな運動やスポーツの価値観をもうちょっと広げて、こういうのもいいんじゃないですかというふうなアンケートの取り方をすれば、多少変わってくるんじゃないかと思うんです。何も運動着を着てシューズ履いてよっしゃ行くぞということだけではなくてね。そういう観点で調べていく、あるいはアンケートを取る。そういうふうな考え方も含めて。

だって、70%って多分無理だと思います、実質的に考えて。多分この63%も出来過ぎぐらいの感じ、よく分からないんですけど、まあ65%いけばいいかなと思います。目標値ですからいいんですけれども。これを70%までに上げるためにどんな方法を取るのかということを考えて、ちょっとなかなか……。簡単に言うと10%増やすということですよ。29年から比べると。その運動やスポーツの概念みたいなものを広げて、小金井市はこれでいいんですみたいなことでもいいんじゃないかなと思います。

ですから、文言としては「運動やスポーツとともに」とか「運動やスポーツの環境を広げる」とか、そういうふうなうたいつつ、その概念を広く捉えて皆さんに、先ほどありましたように階段の上り下り、すごい運動量になると思いますし、家事もやればすごいと思います。掃除、全般そうですね、みんな体力を使いますから。そういうふうな概念をこの運動という中に入れ込んでいるんだという意識を持って、それをどこか知らしめるようなところを少し入れ込んでいけばいいんじゃないかなと思います。

中島課長

そうですね、今、運動の概念みたいなものも、この18ページまでの中には出てきていませんけれども、市民の方に、そういったものも運動になるんだよ、そうしたものもアピールして行って、なおかつ、また我々のほうでアンケートを実施する際には、こういったリード文もつけてアンケートを取ることもちょっと考えていきたいなと考えます。

ですが、暦年でのアンケートにつきましては、我々ではなくて全庁的にアンケートを取っている関係上、そういったリード文を入れられませんので、また、節目節目のところでも我々のほうで独自にア

ンケートを取るときには、そういったリード文をつけながらアンケート調査を実施していきたいと考えます。

また、この計画書の中にもそういった概念みたいなもの、言葉を入れていければ、運動することに対しての気持ちのハードルみたいなものが下がれば、家事をすること、掃除機をかけたり布団を干したり、そういったことでも十分体を動かして運動にはなっていると思いますので、そういったことも十分運動なんだよということはどうたえるような形で、今後、後ろのページの作成に向けて、その辺、何か書けるようなものがあるかどうか検討してまいりたいと思います。

檀原委員

今、それぞれの意見をそうだなと思いながらお聞きしていました。

今の課長の話もあったんですが、そもそもこの2ページのところに多分そのことが触れているのかなと思ったんですね。第2次推進計画でのスポーツの捉え方として、これ、多分まさにそのことが書かれているのかなと。

ですから、スポーツって単純に言うと、今まで話に挙がっているように競技スポーツをどうしてもイメージしてしまいがちなんですけども、こういった一駅運動とかそういうのも、従来のイメージからより広義にということで、ここに定義が書いてあるので、この辺りをアンケートのときに目安にできるような具体的な言葉を載せると、これはもう十分に使えるのかなと思いました。

例えば、万歩計でいえば1日何歩ぐらい歩くのが目安だとか、あるいは障害とかならなければ歩く時間ってあるわけですよ。大体歩く時間30分ぐらいが1回のスポーツと考えていいとなれば、30分程度歩いているのであれば1週間に1回スポーツをしたということになるとか、その辺、もしかしたら東京都とか全国で何かそういった指標があるのか分からないんですけども。この1週間に1回スポーツというと、体育館とかどこかに行って競技をしないとやったことにならないと捉えちゃう方がいらっしゃると思うので、その辺りを明確にすると、今の話の流れになるのかなと思いました。

それと、3章に話が行ってしまった後で申し訳ないんですけども、1点ちょっと確認したいことがあって、16ページの東京都統一体力テスト結果の推移というのがあるって、ここの数字の定義が分から

なくて質問しようと思っていたんですけども。

ここで小学5年生と中学2年生の53、55、54と推移しているのがあるんですが、これ、以前に出ていたのかもしれないんですけども、このページの説明だけ見ると、この数字というのは何でそうか、例えば全国と比較しての東京都の偏差値的な数値なんですかね、平均を50としてのもものなのか。どういう数値の変化なのかという定義が書かれてないので、ちょっと説明していただけたらなと思ったんですが。

中島課長 まずは最初のところで、運動、スポーツの定義が2ページのところにも書かれていますとおり、確かに、この辺の書き方で読んですうっと入ってくればよろしいんですけども、いろんなところにちりばめられて、計画のほうにもそういったスポーツの広い概念を記載していきたいというふうにも考えますし、また、アンケートをする際にもこういったリード文をつけていきたいと考えます。

ランドブレイン株式会社 こちらにつきましては、偏差値ではなく、テスト結果を表示しているものであるんです。確かにおっしゃるとおり、今この計画書の文中に、この点数についての説明が不足しているというところが、この点数について何なんだと思われている要因だと認識しました。こちらについては計画書中にこの点数についての説明を、今、この中ですと15ページの下、運動部というものに例えば目印をつけて、補足として、これがスポーツクラブ、スポーツ少年団を含むものですよと書いたりするんですけども、同様にこのテスト結果の点数の説明をこういった表現で補足したいと思います。

御指摘ありがとうございました。

檀原委員 これが何の数字かというのはちょっと分からないんですか。

ランドブレイン株式会社 このテストの結果の数字自体、点のつけ方じゃなくて、拡散しているような数字のつけ方なのか、偏差値的につけているのかという御質問なんですかね。

檀原委員 何かの競技の平均値で出しているのか、何かと比較した数字なのかというのが分からなかったの。

田中会長 この体力テストの結果って、例えば60点満点で53点なのか、
いろんな体力テストをやるわけでしょう？

ランドブレイン株式会社 そうですね。

田中会長 50メートル走だとかボール投げとか、何だかかんたかかって、多
分ね。その結果が53というのは、どういう意味があるのかとい
うのが分からないじゃない、これだと。

檀原委員 また、それが分かるような形じゃないと、この数字の意味が全く
分からなかった。

田中会長 さっき言ったけど、分かりづらいんですよ、これ。ただこうあつ
て、この数字を追っかけていくのも大変なんだけど。だから、体力
は落ちていきますというのは、何に対してどういうふうに落ちている
のか。平成23年から落ちているというふうに言いたいのか。全国
レベルから見たら落ちているというのかとか。ちょっとこの表をち
ゃんと分かりやすくしてほしいなど。

 いっぱいデータを並べなくても、例えば、平成23年度と令和3
年、2つでもいいわけですね、こうなってるとか、ああなってると
か。30分間の、我々もこうなってる、ああなってるって。何かい
っぱい数字があつて、その数字を追いかけるだけでも大変なので。
そういう意味では、さっきから言っているけど、見やすいような図
表とその説明がないと、見ても分からない。あるいは、その図表を
追いかけていくのが苦痛になると思うんですよ。

 だから、せっかくこれだけやったんだけど、上手にまとめるとい
うか表すというか、何を提示したいのか、ここで何を強調したいの
かというのが、すごく大切なのではないかと。そういう意味では、
この16というのはすごく分かりづらい。

中島課長 16ページのこちらの表のつくり方も含めまして、改めて見やす
いような形で、またはこちらの数字が何を意味しているのかとい
うのもちょっと分かりづらいということですので、こちらのほうも確
かめまして、この数字がどういった形での積算になっているのか、

もうちょっと分かりやすい形で御提示したいと思います。次回の折には整理したいと思います。書き直しをいたします。

長谷川委員

さっきの成果の測定なんですけど、意識の変化のパーセンテージというのをやっている地域とかってないんですかね。

前、うちの会社でウォーキングプログラムをやったときに、結局、やったことの成果ってどうやってはかるんだろうなど見ていたら、何というんですかね、運動しなきゃいけないということに対する意識の変化のパーセンテージで見ていたんですよ。

だから、スポーツを実施するというところに置くと、ちょっとやっぱりいろいろ、これは加えるだの加えないだのということも出てきたりとか、あと受ける側にとってはちょっとと思われるところもあったりすると考えると、どっちかという、やっぱり本当に、それこそエスカレーターを使わずに階段を上するというふうに意識しましたということも、そういうのを促進するのが小金井市の後押しでできれば、それも一つの成果なのかなと思ったんですけども。

ランドブレイン株式会社 今おっしゃるように、実際にやったことを指標にするとか、そういったものを含めて運動・スポーツというものが大事だと意識して生活しているという、その意識自体を成果指標としていることも事例としてはございます。

ですので、どこに焦点をあてて目標を設定するかというところの違いではあるんですけども、今、案では、できればそもそも実施しているところを、御自身の健康ということも含め設定はしておりますが、事例としてはそういったところにフォーカスを当てる。中には多分先ほどから出ておりますように、やはり70%という数字を目標としているということだけで達成するのは現実には難しいのではないかということも含めて、本当はそういった意識とかも含めて設定するというのもあり得るのかなというふうには思います。

なので、回答としては、あります。

中島課長

今回、案で示させていただいている成果指標について、もうちょっと補足説明を申し上げます。

こちらは上位計画で基本構想、前期基本計画があるんですけども

も、その中での指標が、実は週に1回以上スポーツを実施している市民の割合というような形ではかっております。こちらの指標がそのまま我々の計画の指標のところに落とし込まれているような感じになっております。

今回、こちらの計画をつくるにあたってのアンケートを実施した中には、例えば、そうやって意識調査のような形で、意識があるかないかではないんですけども、意識が高くなったとか、意識の変わりようについてのアンケート結果なども取っておりますので、節目節目ではこういったアンケートを実施しまして、意識調査のほうも併せて行いたいと思うんですけども。暦年の成果の指標に関しましてはちょっと、そうですね、上位計画のほうと併せて同じ形で進捗状況のほうは確認していきたいという考えを事務局のほうでは持っております。

長谷川委員

ありがとうございます。ジャストアイデアなので、今後に向けてどこかで参考にさせていただければというところでの意見なんですけど。

そういう意味でいうと、この上位計画、7ページ目ですよね。施策21のスポーツの振興のところで書いてある内容に従うというか、ある程度それを反映しなきゃいけないということだと、逆に、そこはそこで違和感を感じるころがあつて。まず、指標・目標値に、これは上位に従ってということではあるんですけど、スポーツ施設の利用者数60万人というのは、これは、じゃあどこかに反映されているのかというと、ここには書いてあるけど、それはどうなんだろうというところがあるのと、あと60万人って多いのか少ないのかよく分からないので、その測定方法もちょっと分からないなと思っていたところはあります。

あと、施策の方向性も、スポーツ環境の整備・充実は合致していると思うんですけども、スポーツ団体との連携強化って、この後に出てくる17ページのここには反映されていないような感じがしますし、あと、スポーツ振興のための人材育成っていうのは、人材育成って具体的にこれは何ですか、指導者の育成でしょうか。

中島課長

まず1番目、市のスポーツ施設の利用者数60万人というところなんですけども。平成30年度実績値で申し上げますと53万6,

458人という人数になっておりまして、こちらの利用者数に關しましては、毎年、事業報告書というような形で数字は、利用者数に關しては追いかけているようなところでございます。

あと施策の方向性の2、3とこちらの今回の基本目標との整合性についての御質問だったかと思ひます。スポーツ団体との連携強化の具体的な内容としましては、市民が主体的に運営する、例えば、総合型地域スポーツクラブを支援するとともに、誰もがスポーツを楽しみ親しむことができるように気軽に参加できるような事業を実施するとか、そういったものがうたわれております。そういったものは今回の基本目標の1番の中で整合をとるような形にしております。

また、スポーツ振興のための人材育成というのは、先ほど御紹介ありましたとおり、スポーツ指導員の確保であったり、そういった指導員の講習の場を充実させるというのがうたわれておりまして、こちらについても、今回は基本目標1の中に後段のところではスポーツ指導員の人材育成を図っていきますというところで反映しております。

長谷川委員

60万人の目標はどうするんですか。これ、そんなに大事ですかね。ごめんなさい。小金井市としてはやっぱりここを目標値にしたのは、すごく気持ちとしては分かるんですけども。スポーツ推進という意味だと、別に本当に公園をウォーキングすることも一つだと思いますし、そんなにそこに……。これ逆に、書いちゃうと、結構、首絞めちゃいませんか。むしろスポーツの意識を上げることだとしたら、そんなにここにこだわらなくてもいい気がしますし。逆に、でも利用者数を上げるんだったら本当に施設を充実させてくれるんだよねみたいなのところにも発展しちゃうような気もして。ここを目標値に入れちゃって大丈夫かなという心配はあります。

中島課長

令和7年度の市立スポーツ施設の利用者数について、今、こちらの計画上では成果指標の中には入れてはおりませんが、スポーツ環境の充実というような中では、やはり長期計画を見据えて、これに届くような形で頑張りたいという気持ちはございます。具体的に今回の案としましては、こちらのほうの数字は直接は上位計画の紹介

の中でしか書かれておりませんが、目標全体としては、やはり市民の皆さん、あわせて、本当にスポーツというくくりだけではなくて運動というくくりも含めまして、令和7年度に65%、令和12年度に70%を目指していくような計画をつくりたいというふうには考えております。

田中会長 すいません、ちなみに60万人というのはどこから来たんですかね。

長谷川委員 ちょっとはかり方がぴんと来ない。

田中会長 50何万人だったから60万人にしようかということなんでしょう。それか、最初にこの60万人って入れたのはどこから出てきたのかな。何かよく、公共施設の最初のほうに利用者数がどうのこうの、年間の利用者数、最初の頃に何か説明を受けたんですけど。

中島課長 そうですね、昨年、第1回、事務報告書を基に、資料にして、皆様に御説明させていただいたかと思います。多分、その中でも利用者数などが出てきていたかと思います。これ、毎年のようにはかっておりますので、その推移から恐らく令和7年60万人を目標にやるぞということで数字を決めていったんだと思うんですけども。申し訳ないんですけども、ちょっと今のコロナの中でのスポーツ施設の御利用を踏まえての数字では多分ないと思います。そう考えると、こういう既存のスポーツ施設だけじゃなくて、いろんなところで運動というのはできると思いますので、そういったところで今回は考えていただければなと思います。

長谷川委員 そうですね、実際の利用時に申告している側からすると、例えば市営グラウンドをサッカーで使いますと、結構、適当に人数を書いて出しているんですけども。それが人数として反映されているんだとしたら、ちょっと測定方法も考え直すというのが正直なところで。この60万人というのはちょっと分からないな。

 本当にこれを増やしていくということを考えると、やっぱりちゃんとした測定方法から考え直さないと危険な気がします。何か期待

値ばかりが膨らんじゃって、結局、測定の仕方が本当に正しかったのかみたいなのところにも発展しないかなというところがあるので。

やっぱり目標にするのであれば、何かこうちゃんと、内側でもいいですけど、その根拠とか測定方法とかも示しておいたほうがいいかなと思いました。

田中会長 ここで、ハードルということですね。

中島課長 今、測定方法というお話で、我々のほうは、御利用者の人数は一応御申告に基づいた形でのものを集計させていただいておりますので、一応御意見としてちょうだいしておきます。

田中会長 分かりました。要するに、逆に利用者が少なくなってしまうと、物も言えなくなると。これだけ利用しているんだから、こういう施設をもうちょっと充実させてよ、中身をもっとしてよということも言えるけど、市の公共施設がどんどん衰退してしまうと、使ってもいないんだから、しょうがないんじゃないのみたいになっちゃう。そういうことかもしれない。だから、いっぱい利用してね。それで、利用者がこれだけ来ているんだから、もうちょっと体育館の線もちゃんと引いてねって、そういうことにもつながっているんじゃないかなと、今ちょっと思いましたけどね。

長谷川委員 利用のパーセンテージとかで取れないですかね。例えば市営グラウンドにしても、週末は埋まっているんですけど、平日はちょっと空きが出ていたりするんですよ。やっぱりそこを使う側からすると、申請がしにくかったりとか、あと情報発信が不十分なことで、実際やっぱり空いているのに使えてない。その辺を改善することで、利用の度合いも上がるんだと思うし、それで必然と利用人数も上がってくるんだと思うんですけども。

ちょっと人数ではかるのは難しい気がするので、今の利用度合いだったら、フルフルに市営グラウンドもちゃんと使ってもらっていますということであれば、何かを取り組んだことで改善しましたと見やすくなるんじゃないかなと思うんですけどね。人数は難しくないですか。

田中会長 このところはちょっと、どこかに組み込むか何かするしかない。

長谷川委員 上位計画でこれが入っちゃうと下にいくからちょっと何か、これに縛られるのは大丈夫かなと思いました。

田中会長 実際には、ここずっと開けてなかったから、すごく減っているんじゃない。

長谷川委員 体育館とかもやっぱり空き状況とかがすぐに分からなかったりして、使いたいけど使えるかどうか分かりづらいんですね。

田中会長 今の世の中なのね。

長谷川委員 それで使いたかったのに、結果、誰も使いませんでしたじまいという状況が結構あるのかなと。

田中会長 リアルな状況を常に出せるように。

長谷川委員 いかに稼働率を上げるかという話のほうがいいかなと思うんですけどね。

中島課長 補足説明で申し上げます。

7ページの上位計画なんですけれども、こちらのほうの内容につきましては、基本構想・前期基本計画ともに既に出来ている計画になりますので、今こちらの審議によってこの数字を変更するのは難しいという現状がございます。ですので、今回は御審議いただくスポーツ推進計画に関しましての使用値はそちらの数値をとらずに、一応実施率というような形のほうを重点的に捉えて、策定のほうをお願いできたらと考えます。よろしく申し上げます。

長谷川委員 ちょっと上位にどれぐらい縛られるか、私もそのところは分からないですけど。

そうですね、ちょっと実現可能性みたいなところを考えると、あとこれを求めているかなというところを考えると、何かちょっと思うところがあってコメントさせていただきました。

ありがとうございます。

檀原委員 関連して、その60万人というのが、要するに年間の市のスポーツ施設を使った延べ人数ということなんでしょうね。だから、その辺を書いておかないと意味が分からないかなと。小金井市の人口は12万人ぐらいじゃないですか。だから、1人当たり5回使うと60万になるのかなと思うんですけども。例えば、このどこかで示されている総合体育館とか学校の施設開放を含めての延べ人数としての数なのかどうかということは、書いておかないと分からないかなという気はしました。

中島課長 檀原委員からの御意見で、確かにこの人数は述べ人数になりますので、その部分に関しては分かるような形でこちらのほうに追記をしたいと考えます。ありがとうございます。

長谷川委員 何かちょっと一人歩きしちゃいそうな数字ですよ、60万人だけ。60万人が妥当かどうかは何とも言えないなというところがあります。これが多いと考えられるのか、少ないというのか、どうかというところは。おっしゃったように1人が5回使えば多いというふうに考えるのかどうかですよ。

檀原委員 要するに今の人数の概算があって、例えば45万人とか50万人という一応出ている数字がどこかにあった上での60万人なら、多分意味が出てくると思うけれども、そこがちょっと分からないのが気になっているなと思いました。

中島課長 今の御意見を基に、例えば前期基本計画のところに載っております現状値と併記するような形でもっていくように、そこはちょっと考えてみたいと思います。ありがとうございました。

田中会長 時間も大分迫ってきましたけれども、基本目標の前に、さっきの「運動・スポーツ」というのは、そういう文章でよろしいですね。「スポーツ」というところを「運動・スポーツ」。

中島課長 そうですね、18ページもしくはそれ以外のところもそうなんです

けども、まずは18ページの「スポーツ」、まずは基本理念のところ「豊かな生涯を運動・スポーツとともに」というふうに変更と、あとは基本目標1、基本目標3の頭の「スポーツ」の前に「運動・スポーツ活動の推進」、また、基本目標3のところに「運動・スポーツ環境の充実」というふうな変更をさせていただきたいと思うんですけども、皆様、よろしいでしょうか。

では、そのような形で、修正のほうを加えたいと思います。

田中会長 成果目標はよろしいですか、70%というのは。東京都が70%だという、よろしいですかね。

中島課長 参考までになんですけども、周辺自治体の状況も説明させていただきます。都と国は70%というふうにうたっていますけれども、周辺自治体で、例えば調布市さん、国分寺市さん、西東京市さんも70%をうたっております。府中市さんに関しましては63%ということであっております。ちょっと私の手持ちの状況ではそのような形になっております。

田中会長 府中市はいっぱい施設を持っているからね。

長谷川委員 そうなんですよね。だから、ほかの近隣の市はやっぱり設備が充実しているから、何となくそこを使って実施しましたかということを目標にしても、全然それはそれでいいと思うんですけども。小金井市の特性を生かしたときに、やっぱり自然豊かでありますといったところを使ってスポーツすればいいじゃんってということも小金井市らしい対策だと思うんですよ。

そうしたときに、あえて何かここにこだわらなくても、ちょっと意識を後押ししてあげるというか、ウォーキングするだけで健康が改善されますよねみたいなところで、そこをターゲットにしていくということも、あまりサッカーとか野球ばかりをターゲットにするということではなくて、普段、スポーツに関わっていない主婦の皆さんとかそういう人にいくらか意識づけできるということも、目指す姿としてはあり得るかと思うんですよ。

だから、ほかの市は分かるんですけど、やっぱり小金井市の特性を生かしたときとか現実的にやれることを考えたときには、目標を

別に変えてもいいんじゃないかなというのは思ったところです。あまりここにこだわらなくても、さっき言った意識が、今までスポーツに対する意識はここまでだったけど、これがこういうふうに、いろいろ取組をしていただいたことによって変わりましたということも、一つのはかり方かなと思いました。

田中会長 このアンケートの仕方が、ずっとスポーツを週1回と書いてあるんだけど、さっきからずっと言っている運動というものの概念を入れて幅広くして、こういうのも運動になるから、それだったら週1回になりますよみたいな例を提示してあげるといいんじゃないかなと思います。その中で高い目標を掲げてやるということですかね。

中島課長 そうですね。この表記の仕方からも、皆様が意識を変えて取り組めるような形で作り込んでいって、最終的にはやはりそれが週1回実施する形が東京都の目指す70%と同様に小金井市も70%を目指していくという形で作り込みをさせていただければなと思います。

田中会長 よろしいでしょうか。時間になりました。
皆さんのほうから何かこれだけは言っておきたいということがございましたら。ないようですので。

第3章まで御議論いただいて、いろんな訂正があると思いますけれども、やっぱりまだもうちょっと手を入れたいといけないようなところが結構あると思うので、図表にしても文章にしても。すごく情報量がいっぱいあるんですけども、やっぱりそこを上手にまとめながら、分かりやすくしたいと思いますので、また、皆で頭をつかって進めてまいりたいと思います。一応第3章まで取りまとめたことにはしたいと思います。

その他になりますけど、何か皆さんのほうからありますでしょうか。よろしいですか。特にないようでしたら、本日の議題は全て終了となりました。これをもちまして、第3回スポーツ推進審議会を終了したいと思います。長い間、ありがとうございました。お疲れさまでした。閉会いたします。

— 了 —